

Topics

「奥の細道矢立初めの地  
子ども俳句相撲大会」  
参加者(作品)募集

子ども俳句相撲大会は、南千住が松尾芭蕉の「奥の細道矢立初めの地」であることにちなんだ俳句大会です。2人1組で俳句を披露し合い、トーナメント方式で横綱(優勝)の座を競います。3月9日(土)の千秋楽(本大会、会場サンパル荒川)を目指して、ぜひ、投句してください。

対象/区内在住・在学の小学生  
応募方法/1チーム 2人1組で、2句の俳句(お題は「春の季節」)を作成し、2人の住所・氏名・電話番号・学校名・学年・チーム名・チーム名の由来・意気込み(氏名とチーム名はふりがなも)を明記し、持参または郵送で、1月9日(水)必着  
※選考の上、千秋楽出場チームを決定  
※応募作品は返却しません  
応募・問合せ/〒116-0003荒川区南千住6-63-1 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

投句してね！  
待ってるよ。



ばしょうくん

荒川リバーサイドマラソンが  
開催されました！

11月18日、「第27回荒川リバーサイドマラソン」が、荒川河川敷右岸の荒川区営少年運動場を主会場として開催されました。当日は天候にも恵まれ、絶好のマラソン日和の下、小学生から大人まで約2000人のランナーが、2・3・5・10キロのコースを駆け抜けました。区内の小・中学生も多く参加し、日頃の運動の成果を発揮しました。



開会式でありさつをすにしかわくちやうる西川区長



ゴールを目指してがんばろう！

平成30年度荒川区文化祭  
小学生・中学生の  
展示俳句入賞者と作品を発表！

みんな、おめでとう  
ございます！

11月2日〜4日、平成30年度荒川区文化祭・俳句展示会(場・町屋文化センター)が開催されました。今回、小学生と中学生の入賞者と作品を紹介いたします。(敬称略)

中学生	小学生
<p><b>優秀賞</b></p> <p>運動会 想いを託す バトンパス 路地裏の 空を切りさく 稲光り 校庭中 熱気湧きたる 運動会 大合唱 蝉が開いた コンサート</p> <p>南千住第二中学校 1年 岩崎母果 第四中学校 1年 今井勇仁 第四中学校 2年 中村都麦 第四中学校 1年 横田宏一</p>	<p><b>特別賞</b></p> <p>眠りゆく 鋼の城の 熱帯夜 昼寝して スイッチ切り替え 戦国へ</p> <p>第四中学校 2年 鈴木嶺資 第四中学校 3年 渡邊零</p>
<p><b>優秀賞</b></p> <p>みずたまり なかをのぞくと にじがある ぼんおどり どんとたいこの おとひびく</p> <p>赤土小学校 6年 稲葉光星 第七峡田小学校 1年 渡辺菜々子</p>	<p><b>特別賞</b></p> <p>あさがおに おみずあげたら わらったよ コンサート 今夜の主やくは すず虫だ</p> <p>第三瑞光小学校 1年 小泉絢菜 第二峡田小学校 4年 鶴岡ひかる</p>
	<p><b>優秀賞</b></p> <p>コスモスの さく道はしる バスの旅</p> <p>第三瑞光小学校 6年 吉開美希</p>

あらかわ  
今昔ものがたり  
日 [あらかわの歴史と伝説]

その121 子規さんと虚子さんの  
道灌山

荒川区は、俳句ゆかりのマチ。南千住から松尾芭蕉さんが、奥の細道に旅立ち、日暮里の本行寺の句会には小林一茶さんが度々参加している。特に正岡子規さんは、あらかわをテーマにした素晴らしい俳句を残してくれたんだよ。

「俳句」を広めた子規さん

子規さんは、明治時代の代表的な俳人であり歌人だ。俳句・短歌・詩・小説の世界を研究していた子規さんは、時代に相応しい俳句を作りたいと仲間といっしょに熱心に運動して「俳句」を全国に広めたんだ。

子規さんは、明治28年(1895)、脊椎カリエスに罹ってしまった。でも、病氣と闘いながら、高浜虚子さん・河東碧梧桐さん・伊藤左千夫さん・長塚節さん達を育て、俳句や短歌だけでなく、日本の近代文学に大きな影響を残したんだ。

子規さんは、明治35年(1902)に亡くなるまで、音無川沿いの根岸の家(台東区、子規庵)に住んでいた。お散歩が大好きだったので、近く

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



野尻館長

の芋坂の団子屋(東日暮里、羽二重団子)、道灌山(西日暮里四丁目)、三河島辺りまで出かけて、景色やお団子、三河島菜等の俳句を詠んだんだよ。



井上安治画「道灌山」(荒川ふるさと文化館蔵)

子規さんと明治28年12月の道灌山事件！

子規さんは、見晴らしが良い道灌山がお気に入り、病氣にも関わらず何度も訪れた。明治28年(1895)12月9日、弟子の虚子さんの待ち合わせ場所に選んだのが道灌山の「婆が茶屋」。ここで虚子さんに「自分の後継者になって欲しい」とお願いしたんだ。でも虚子さんに断られてしまう。虚子さんは22歳で、まだ自分の生きる道を考えていたと思っていたんだね。この出来事は「道灌山事件」と呼ばれている。子規さん、虚子さんの二人にとって、道灌山は忘れられない場所になったんだ。今度、道灌山を歩いて、子規さん達が眺めた風景を想像してみてね。

柿くふや道灌山の婆が茶屋 子規